



「翠巒体育」に寄せる

会 長 国 峰 善 次 郎



この度、翠巒体育会の機関誌「翠巒体育」が、母校高崎高校当局を始め、会員の皆様、また現役運動部諸君の御協力を得て創刊される運びとなりました。ここに、お世話になった皆様に厚く感謝し、会を代表して、心から創刊号発刊をお慶び申し上げます。

巷に種々の組織がありますが、会を象徴する機関紙の有無によって組織の価値が大きく左右されます。この時、編集に当たった諸兄を始め事務局の御努力により「翠巒体育」の発刊を見たと言う事は、永い母校の伝統に生きる我々体育会の意義が大きく示されたものであると確信致しております。

さて昨年五月、翠巒体育会は、母校高々運動部の後援、会員相互の親睦、そして各運動部OB会の未組織の解消を合言

葉に、一つの区切を付けると言う意味で戦後卒業した運動部OB、応援部を含め一四部一相撲は柔道部に入るの代表者でもって発足しました。本来ならば会員個々の賛同を得てから会を発足させるのが組織結成の姿であると考えますが、本校卒業生の特殊性から言って理想論を唱えている場合ではないとの判断から、在高崎の各OB会の代表者によって建議され発会に至った訳であります。会員の皆様には、この点広く御了解をいただきましたと思います。

経過一年、それなりの活動をして参りました。過去と未来の永い伝統の中間点にある現在、本会の活動には、その必要とされている事項が山積されていますが遠い道程を行く旅人が歩くように足元をしっかりと見詰め時の条件に依りあらゆる英知を結集し、本会と母校の発展のために頑張りたいと思っておりますので、会員の皆様の御協力をお願い致します。

さて、この機会に現役諸君の様子をながめて見たいと思えます。学校長のお祝の言葉に、そして別表に示された通り、本校の運動部の活躍には最近目を見張るものがあります。OBが三人寄れば「現役の連中は！」との声を耳にしないでもありません。確かに一昔前の高々スタイルから見れば、表面的な感じではヘアスタイル・馬力等変っております。しかし現役諸君も、我々の現役時代同様、試合に勝とうの信念に変わりはありません。考えて見れば、何不足ない現代社会に育った現役諸君は、試合をする以前に、自分の基礎体力を造りしかる後にプレーを身に付けなければならぬと、言うかわいそうな立場にある訳です。戦後間もなく卒業した方々の二世も、数多く現役として活躍しています。このお父さんたちが、自分たちの時代と子供たちの時代の違いに就いて言葉に表せない哲学を感じ取っていただけるように、現役諸君も、それなりの苦勞をしているのを合宿時のミーティング等で充分感じ取れます。

我々体育会々員は、親の意見より他人の注意の言葉が、人間形成期にある高校時代にどれ程心に残っているかを思い出し、広い立場にあって現役を温かく指導しなくてはなりません。そしてまた、良き人生の先達としての相談役に

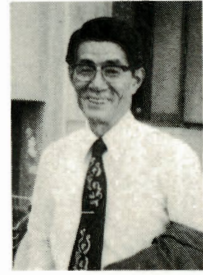


大応援旗、母校に贈呈(二七〇×三九〇)

もなっていたかと思えます。幸い、本会発足以来幾つかのOB会が結成されました。ここに本会結成の目的もかなえられ、それぞれ現役諸君と和やかに交流しているのを見る時、今後の高々運動部の活躍と共に、OB会の発展、併せて本会の前途にますます希望が持て来るのを感じ取った次第です。

最後に、会員の皆様、健康に留意され本会と母校のために尊い生活の時間を少しでも割愛下さるようお願い致します。「翠巒体育」創刊の祝詞と致します。(五〇回・サッカー部)

発刊にあたって



学 校 長

中野敏宗

翠巒体育会が創立されて一年有余になりますが、その間順調な発展を続け、ここに会報第一号の発刊を見ましたことはまことに同慶に堪えません。本会は、各OB会間の親睦をはかると共に、広い見地に立つて運動部全般を支援する目的をもって生れましたが、かような連合組織は県内は勿論、全国でも希有なもので、母校としても大きな誇りとするものであります。特にその発足以来、大応援旗を始め折に触れ心のこもった支援を戴き、深く感謝しております。お陰をもって、最近は本校運動部も特に目覚ましい活躍を見るようになりました。本年春の県下総合体育大会ではバレー・ラグビー・水泳の三部の優勝とバスケット部の準優勝を得、関東大会へは運動部一二チーム中の七部が選抜され出場しました。今年是一般に普通科高校の躍進が目立ち関係者の注目を引きましたが、

本校はその推進的役割を果し新聞紙上でも普通科高校台頭の旗手と評されました。普通科高校生は、大学受験の重荷を背負っており学業と運動との相克に悩むものでありますが、本校の生徒は、過去の幾多の先輩が立証することく、両者を克服し得る素質・能力を持つているものと信じます。またこの矛盾に打ち克つ逞しい闘志、充実した気分こそ高々精神と考えますが、最近運動部に成績の優秀な生徒が多くなり、まことに心頼もしく感ぜられます。

例年秋を迎えますと、三年生は勇退し選手の交替が行われますが、翠巒を背にした運動場や体育館では既に新人が孜孜として練習に励んでいます。年々歳々、部員は移り変わって行きますが、先人が培われた精神はいつまでも変る事なく伝えられて行くことでしよう。先輩各位もそれぞれの競技に精進した往年を想起し、若々しい心をもって後輩を指導して下さるよう願ってやみません。

創立八〇周年記念事業と

高々の近況

教頭 渡辺 延一

本校が昭和十三年、上和田町からこの乗附の地に移転してから、この十二月で丁度三十七年になります。いまこの乗附も八千代町と町名が変わったように、昔のものが姿を消し新しいものに変容して行くうとしています。学校でも、長年見慣れた木造校舎が、いま次々と鉄筋コンクリートの新舎に衣替えしております。昨年度、もとの美術教室棟の後に完成した三階建の普通教室棟は、井上工業の施工により、学校建築としては県下に類を見ないような立派なものに仕上がりました。外壁も、淡く、落ち着いた、しかも気品のある色で、観音山や銀杏並木とよく調和し、木造校舎とはまた違った良さがあります。本年度は第二期工事として、昇降口と管理棟の一部を建築中です。

校舎の改築と並行して、昭和五十二年の八〇周年を目標に記念事業を計画していることは、既にお知らせした通りですが、翠巒体育会の皆様にも関心の深いと思われる校庭の改修については、昭和五十一年度には着工したいものと考えております。記念事業の中でも一番金のかかるこの事業の着工は、勿論募金の進捗状況とも関係があるわけですが、最近の経済界の不況は私達の想像以上に深刻で募金活動もかなりの影響を受けております。しかし、それにもかかわらず、関係

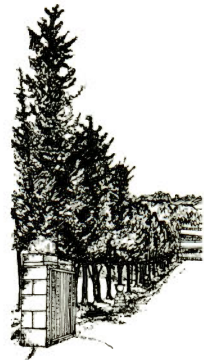
者皆様の絶大な御協力により着々と成果を上げておりますことは、ただ感謝の一語あるのみです。現在までのところ、PTA関係で約一三八〇万円、同窓会一般寄附約七六〇万円、同窓会特志寄附約七七〇万円で、計三〇〇〇万円弱集まりましたが、このほか、まだ入金はないが芳名録に記載を頂いたものが、一〇〇〇万円余ありますので、総計四〇〇〇万円余の資金の見通しがついた訳であります。しかし、目標額からみれば、まだやっと半ばに達したばかりで、これから一層の御協力をお願い申し上げます。

なお校庭の改修について、計画書にテニスコートが含まれておりませんが、学校としてもテニスコートは持ちたいと思っております、その用地について検討はしております。ただ本格的なものは、現在のところ、建造物の移転整理によって用地を生み出したいと思っておりますので、明確な見通しが立てにくい事情にあります。

この校舎改築と記念事業の完成により本校の教育環境は一段と整備されるわけでありませんが、この立派な革ぶくろに、上和田から乗附に伝わる古い伝統を大切に保存しながら、若い人達の指導に当たりたいと考える次第であります。

特別寄稿

体育と私



山口正三郎

弓の強さを適当に選ばば七〇才・八〇才の老令者でも女性でも出来る。一人で出来る。

他のスポーツと異り一人で自分の都合のよい時間に出出来る。

4 精神修養になる

弓は己との戦である。不動的、無人の弓矢を使って正しい射を出すには己を正しくしなければならぬ。

上下左右に伸びきり一切の邪念を去って初めて理想の射が出ると言われる。ここにおいて己を反省し克己・決断の精神が養われる。

5 礼儀正しくなる

射は「礼に始つて礼に終る」とされ至誠・礼節・謙讓・信義の徳目が涵養される。

6 経費がかからない

年会費一五〇〇円、県の会費を入れても三〇〇〇円位で一年中出来る。

健康のために気軽に引くも可、生涯の修養道として自己完成に努めるは更に可。同窓生各位は勿論、学生諸君にも奮つて参加していただきたい。

前橋では群大を始めほとんどの高校が弓道部を持ち、高崎でも高経大・農大二高・高市女の弓道部の諸君が精進している。母校においても弓道部の一日も早い結成を見、全国に高々の名を轟せてもらいたいものである。

(三〇回・関東いすゞ)

自動車K副社長)

柔道の羽鳥治良松君(クラスでびりから何番と言う短軀でありながら六尺豊かな大男を投げとばす技は姿三四郎を思わせる)、剣道の堀越進君(県下屈指の使手と言われたが先年惜しくも物故)、野球の布施賢一君(県中学野球トップクラスのキャッチャー)、体操の清水貞保君(永く母校の体育指導に尽力された)等名選手を同級生に持ちながら、私は正課の柔道を始め水泳・野球等一通りやったが、特にこれと言って打ち込んだスポーツはなかった。

軍隊に入ってから歩兵砲隊へ入隊したため、短剣術(銃剣術の攻撃武術)に対して防禦武術で今の日本の国防のようなもの(・双手軍力術(剣術)を修練したがこれは専ら実戦用のものであるため軍務終了と共に遠ざかってしまった。

ただ、自分からやってみようと思つて飛び込んでいったのがボートと弓道である。

商船学校を志望したが胸囲不足ではねられ、ひ弱な体を何とかして鍛えようとの思いと海へのあこがれの一端として、早稲田へ入学するとボート部へ入部し、二年間隅田川・荒川を漕ぎ回った。夏休みを利用して、言問橋の近くの艇庫から荒川・江戸川から利根川へ出て銚子まで遠漕したことは、今も懐かしく思い出される。

弓道は、社会人となって国際汽船に入社してから先輩・同僚に誘われ新井薬師の長谷部道場に入門し約二年通ったが、再度召集の大陸行きで中断せざるを得なかった。戦後帰還してから一五年程空白が続いたが、会社が自動車会社のためもあって体を動かすことがなく体がなまって来るので、何か運動しなければと思つた。

たまたまゴルフが大衆化する時であったが進んでやる気は起らず、昔を思い出して再び弓を始めたのが昭和二十五年で

あった。四十年六月に五段を認許されるまでは全くトントン拍子であったが、練士の壁は極めて厚く挑戦すること一三回、この九月十四日に練士、十五日に六段に漸く合格した。段をとり資格をとるのが目的ではないが、やる以上は正射必中と言われる正射(縦横十文字に伸びきって離す正射の姿は実に美しいものである)を体得したいと受審を重ねたわけであるが、その道は極めて厳しく、楽しみで始めたのが苦しみになってるのが現状である。今度失敗したら楽しみみの弓に戻り気楽にやるつもりであったが、幸か不幸か合格したためにまた苦しみの道を歩まねばならないと覚悟している。

弓は

1 健康によい

全身の血行を盛んにし新陳代謝を促進する。特に精神的疲労の回復、胃腸の弱い人には顕著な効果がある。

2 老若男女を問わない

O B 会 の 活 動



走れ、走れ!!

ラグビー部

住谷 克彦

焼けついた校庭、夏草もしおれかけたグラウンドに、現役のスバイクはすこい砂ぼこりを上げてゐる。彼等が待つてゐる夕立は一度も来ず、今年の夏合宿も暑い日の連続だった。

春の関東大会に県下で優勝し、秋の国体出場権獲得を目指して、スクラムに、タックルに、そして練習マッチを終えて最後のグラウンド一周。「走れ、もっと走れ」と中原監督・坂田部長・岡田顧問らの叱咤激励の聲に、夕闇の中を、団になつて走る現役、それに続くOB達。シーズン未にはきつと好成績を上げる事だろう。そして彼等は、素晴らしいものをつかんで卒業して行くに違いない。

毎年の県内高校OB戦では、我が若手OBも社会人として高度の試合を展開しプレーを楽しんでいる。また三五才以上のOBも「高崎ラガーズ」を結成し、県外まで対戦相手を求め、大いに血気盛んである。特に、齡六〇才の須永会長も毎回試合に出場し拍手を浴びている。最近では四〇才以上の高々OBと前高OBを中心に結成した「群馬惑惑クラブ」が、全国にその名声を轟かせている東京不惑クラブを招き対戦したが、七四才の選手や

五五才でも最後まで走り抜いた選手に大変感激し、走つていけばいつまでもブレ一出来るると大いに意を強くした。我々は現役と共にまだまだ走る覚悟である。

老化は大敵、老いも若きも
「永遠の若人」を目指して

走れ、走れ!!
(四九回)

六 九 会

バスケット部

反町 定夫

井上卯一郎先輩(三三回)を頂点に、財源には不自由しなかつたので、永年無政府状態が続いた。言わば、無秩序の中の秩序である。

しかし、ここ三、四年、規約と新OB会名簿が出来上ると、居るは居るは、総勢二〇〇名以上の大部隊。さすがの歴史であつた。民主主義のルールに則り平等割の会費も入つて来るようになりただ今徴収率も順調、将来に向かつてゐる。

「ローキュー」に引つ掛け、六月九日近辺の日曜日に、年一回全員で体育館に集い老いも若きもバスケットに興じようと、昨年より「六九会」が発足した。バスケットもしよう、金も取ろうと五月末を年度末にしてその日に年会費を集めよ

うと言う二面作戦、今年も成功したようだ。現役にも頑張ってもらい、OBも若さを失わず、順風満帆の将来を期待したい。またそれにより、同じ釜の意義を感じて日々の幸せをかみしめたものだ。
(五〇回)

庭 球 部

勝俣 真

明治四十年部創立と歴史の古い庭球部は、世界的名選手清水善造氏(七回)を筆頭に、昭和七年には長谷川・磯部組が全国中学大会に優勝するなど、戦前より立派な先輩を輩出してゐます。

長い伝統を持つ庭球部も、残念ながらOB会の組織がなく卒業生の連絡もままなりませんでしたが、昨年来の翠巒体育会の発足を機に、現部顧問鴻巣先生の努力により名簿も出来上りました。

幸い現役の諸君は、現在の県内各高校で最多部員数を数える程の活況を呈し、毎年夏の合宿には若い卒業生諸君の参加も増加しております。今年の成績は、残念ながら団体戦は優勝出来ませんでした。個人では上位の実力を発揮してくれました。更に一〇年目にして初めて一年生大会に優勝者を出し、来年もまた活躍を期待されてゐます。

昭和五十八年の群馬国体も決定し、県連理理事長須藤清氏(三四回)を中心に高崎で軟式庭球部門を開催すべく、多くのOBが頑張つてゐます。また、本校のホームコートの市営コートも手狭になり、現役の練習にも何かと不都合な点も多く

バ レ ー 部

片野 恒

なりました。この点からも、母校に何とかコート面の増加を、OB一同も協力して果したいと願つております。
(五一回)

戦後、第一代主将桜井以下二〇名でスタート。控所の前にコートを作り、故金井繁次郎先生を部長に、文字通り手探りの練習が始まった。練習試合や大会に参加することに戦法などを学びつつ、真黒になつて練習した。ボール修理も重要な日課で、そこへ先生方が加わつて文学や哲学について論じ合つたことも、良き思い出である。恵まれぬ条件であつたが故に返つてその情熱は高く、その成果は第一回県高校選手権優勝という形で報われた。この第一期には、後に佐藤学園高校の監督として全国制覇した高橋がセッターとして活躍している。

第二代片野、第三代織茂の時代には時間差攻撃等もマスターし、総合選手権・両毛大会優勝という黄金時代を迎えたがいずれも国体予選では高商に惜敗。以後部創設以来、国体には未だ出場出来ないという不運に泣いて来た。

本年より迎えた菊地監督は、三〇年振りに初めて迎えたバレーボール専門の監督として就任直後、本人が現役時代以来一〇数年振りという優勝を早速もたらした。母校に帰つた監督なので、今後の躍進を大いに期待するものである。
(四九回)

翠巒サッカークラブ

サッカー部

間庭 康男

昭和四十七年の末、有志が集まって語らいサッカー部OBによって組織された「翠巒サッカークラブ」も、現在では会員一八〇有余を数える大世帯となって活動しています。本会の会則に謳われている会の目的の主なもの、母校高々サッカー部の後援と会員相互の親睦ということです。

まず、高々サッカー部の後援についてみますと、特に目につくのは、昨年佐賀で行なわれた全国高校総体に母校サッカー部が出場した折の寄附集めです。折角の総体出場なので全部員を参加させたいというOBの熱意により、一〇万円余りの寄附を集めることができました。試合は善戦空しく一回戦で敗退しましたが部員は大会の雰囲気と直接触れることができ、今後の部活動に生かされることと思えます。

春・夏の合宿には、大学の現役で活躍ペンデルボールのポールを建てる
(昭四九・八) — サッカー部 —



しているOBをコーチとして送り込んだり、合宿費の補助を出したり、会員の有志がヘッドイングボールを下げるポールを設置したり、校庭の整地を手伝ったりというようなことも、現役の後援という考え方から行なって来ています。

また会員相互の親睦という意味から、毎年一月二日には初蹴会を開催していますが、これには五〇名のOBが集まり、幾つものチームを組んでサッカーを楽しんでいます。このチームを發展させて県協会にも登録し、公式戦にも参加しています。県下には五〇程の社会人サッカーチームがありますが、翠巒サッカーはまだ三部リーグで低迷しています。しかし、市民大会などでは結構いい成績を上げています。行く行くは、OBチームも、県下社会人チームの中で指折り数えられる強いチームになることを念願しています。

最後になりましたが、今年は会員名簿も本印刷の立派なものができましたので一八〇有余の会員の交流・親睦が、今までの以上に図れるのではないかと期待しています。
(五二回)

応援部

下田 茂夫

昭和二十五年夏の高校野球県大会を前にして結成された応援部は、当時早大応援部三年だった福田正一先輩の指導を受け、部員相談の末、学生服を着用する事とし、腕章は美術部阪本君に一〇数枚書いてもらい、物資不足の時代にワセタカ

ラーを出そうと苦心しました。部員の熱意と全校生徒の協力で統制の取れた応援団が県下に最初に誕生したのが、今から二五年前の事です。発足当時は生徒会本部に属し、その後永らく新聞部の後輩諸君に引き継がれ、今日では独立した部として活動している様です。

昨年OB会の名簿を作成した所すでにその数は一〇〇余名に達しております。卒業すると縁が薄くなり上と下の連絡が不充分で、早く早くと思いつつも総会を聞く運びにならず、努力不足を反省している次第です。OB諸兄の御協力で今後の發展のためにも、早く会を發足させなくてはと痛感している毎日です。
(五〇回)

卓球と私

卓球部

須藤 順一

私が卓球を始めたのは、中学に入った時からです。それから中学・高校と六年間、卓球を中心に毎日を送ったものでした。特に中学時代には卓球台の数も少なく、朝の五時起きして、授業の始まる前に練習した程でした。そのような毎日が私の人生において、一つのものに打ち込んで夢中になった時でした。今では一つのものに夢中になろうとしても、なかなか難しくなってきました。

しかし、それ程までに打ち込んだ卓球にもかかわらず、私の戦績は県の大会でも三二位止り、いま一つの進歩がありま



谷川岳へ (昭25.7)

— 山岳部 —

せんでした。私に限らず、私が高々を卒業して八年になりますが、その間にも私同様際立った成績を上げた後輩がいません。やはり他校との伝統の差や練習に違いがあるのでしょうか。力がありながら伸びることの出来ない後輩たちが沢山いました。そんな理由もあって、私は後輩たちの合宿には毎年欠かさず参加し、少しでも技術の向上、あるいは精神面の向上に寄与出来ればと思っています。

また、最近ではOBたちが集まって卓球クラブを結成しました。月一回の練習ではありますが、県にも正式に登録し、各種の大会に出場しています。高校時代には、大会というと必死の思いで臨んだものですが、今では皆楽しみながら参加しています。正に「参加することに意義あり」です。

最後に、高々の後輩たちには、是非強くなってインターハイ・国体などで活躍してもらいたいものです。その一つ一つの積み重ねが伝統となり、高々卓球部の一部の飛躍につながると思います。そのためにも、我々OB達は協力を惜しまないつもりです。頑張れ！高々卓球部、今後の活躍に期待しています。
(六七回)

昭和四十年秋、母校高々野球部の監督を拝命致しましてより九一〇年間でしたが、今年夏の大会をもって暫時休ませていただく事になりました。皆々様に御支援・御協力いただき、また種々御迷惑をお掛け致した事も多々ありました。この場をお借りして御報告と共にお礼申し上げます。皆様には甲子園原頭で「翠樹」を

高々の 黄金時代は 必ず来る



本 多 饒

かなめた辛酸さえ楽しく面白い記憶として甦えるようになってしまおうと思います。貴重な経験をさせていただきました。今後も高々野球に対する情熱は増しこそすれ冷える事はありません。皆様に今後野球部に対する暖かな御後援をお願いするものです。

高々野球も未だしなら、群馬野球も未だしです。高々野球部の真の、永い黄金時代の到来は必ずあります。しかし創立以来八〇年を迎えんとする母校高々の野球部が、幾度か好機ありながら、未だ一度として甲子園の土を踏み得ないという事実は強く認識し、反省もしなければならぬと思います。それは野球部として憂慮すべき「何か」を物語っているのではないのでしょうか。監督在任中の体験と何度となく自他チーム側の識者・先輩諸氏より拝聴した事柄はこの「何か」。「何か」を臆に物語っておりましたし、その累積は明確な答となっております。

部員や予算の多過ではなく質の優劣でもないアルファが、実力による甲子園出場に必須な最低条件です。自らの力で甲子園を目指すための入部が、あるいは他クラブに見られないところのTVに代表されるマスメディアに寵児のごとく扱われる夏の大会のあの華やかさに憧れる入部か、体力造りか。これ等全てが包含された動機ではあろうけれども、厳しさを覚悟する心構えがなくては栄誉は得られないと言明解な認識に欠けた部員や自己弁護に逃避する者が多過ぎます。これは全国的・全クラブの風潮らしいですが、厳しく鍛えられた個人・個人のプ

謳歌していただくという夢は果せず心残りの感も浅からぬものがありますが、これも甲子園への大いなるワン・ステップと心し、お報しただきまして今後は外から高校野球を研究したいと思っております。

選手の若い息吹を吸収し共に汗し、涙しての悲喜こもももの一〇年間でした。今は未だ呆けた状態ですが、直ぐに幾度

レーの連続が、良いチーム・プレーとなる野球等のチーム・プレー競技においては、チーム造りの上で致命的欠陥です。偶然性に富むプレー、勝敗さえも偶然や運と言われる不確かなものに左右される確率の高い野球において、運や偶然によって敗戦に追いやられる率を少しでも少なくし実力を発揮させ勝を高めるには、一にも二にも「厳しさ」です。決して手前味噌でなく、指導サイドの技術の甘さ欠陥はさておいても、選手サイドに目標高く厳しさに耐える姿勢が必要になって来ます。ハードなトレーニングが、確実に計算し得るプレーの基本です。基本なくして良い試合は出来るはずもなく、まして甲子園出場なぞ論外です。本校少数部員、言うは易く、行うは困難を極めていますが……この基本的姿勢を貫き通して技術を習得したなら、部員と指導者サイドとの技術的・野球的知識等の意見のキャッチボールも有効になり、チームとしての仕上りが形成されていくように思います。残念ながら、「基本」を素通りして巧くなろうとする生徒が、野球部だけでなく、他にも多過ぎるのではないのでしょうか。部員と部長・監督との心の交流・信頼感は、チームになくてはならないものです。しかし我々の目標は高いところにあります。厳しさ抜きの高合はあやふやな結合しかありません。甲子園常連校の監督・部長も現代っ子の指導に腐心しているとか聞いています。そして結果は甲子園へ出場していません。自分としても大いに研究せねばならない今後の課題としています。本県有数の進学校

として入校時に既に実業校生徒とは異質の針路感覚と体質を持った生徒の部活動は、自ら異質の在り方が必要なのかも知れません。実業校の有名クラブ入部者は技術の習得と全国大会出場等の肩書をもって大学へ入り将来を決めようという方向づけを、既に高校入学時に持っていると言ふ事を聞きました。そこに、ハードトレーニングに打ち克って伸びようという姿勢が生じて来ますし、本校部活動生徒と基本的な差が生じるのではないのでしょうか。受験戦争・少数部員、そして容易に矯正も改革も出来ないものを精神構造に内包する選手・チームが甲子園を目指すのは一種悲壮とも言えますが、それでもやり遂げねばならないとしたら……休ませていただく間、ベース・ボールの戦術・戦略の学習とグラウンドに全力投球出来るよう業に精励すると同時に、前述の問題解決にはどうすべきかを考えたいと思っております。選手と監督・部長等が一体となつてこそ、良いチームです。決して独り相撲にならぬように皆様にもお考えお聞かせいただきたく思っております。高々野球部の黄金時代は必ず来ます。「必然」の信念もあります。皆様に広く御協力賜りまして、捲土重来を期すものです。

なお、現在部員二名、後任の本校社会科教諭高橋正親監督共々、秋季関東大会制覇を目指し頑張っています。OB諸兄におかれましては、グラウンドに会場にお顔を見せていただき、先輩の指導に当って下されたくお願い申し上げます。

(五七回・野球部)

翠巒体育会々則

昭五〇・六・一一改定

第一条 (名称)

この会の名称は翠巒体育会と称す

第二条 (事務局)

この会の事務局は高崎高校内に置く

第三条 (会員)

この会は高崎高校各運動部OB会員をもって組織する

第四条 (経費)

この会の経費は会費と寄附金をもって充当する

第五条 (目的)

この会は高崎高校運動部を後援し、会員相互の親睦を図ることを目的とする

第六条 (事業)

前条の目的を達成するために次のことを行う

- 1 総会その他各種会合の開催
 - 2 高崎高校運動部の後援
 - 3 会員名簿の発行
 - 4 会員相互の親睦互助
 - 5 その他必要と認められた事項
- 第七条 (役員)
この会は次の役員を置き、会務を掌握する
- 1 会長 (一名)
 - 2 副会長 (二名)

会務を総括し、この会を代表する

会長を補佐し、会長に事故ある時に代る

顧問・参与 (若干名)
会全般について意見を述べ、必要に

応じて会長の諮問にあずかる。

4 理事 (若干名)

5 監査 (二名)

第八条 (役員を選出)

1 会長・副会長は会員中より理事会が推薦し、総会において決定する

2 顧問・参与は理事会が推薦し、総会の承認を経て会長が委嘱する

3 理事は各運動部OB会毎に二名、会長推薦の者若干名を総会の承認を経て決定する

4 監査は会員中より互選し、会長が委嘱する

第九條 (役員任期)

役員任期はそれぞれ二年とする。但し再選はこれを妨げない

第十條 (総会)

この会は毎年一回、四月に総会を開催し、次の事項について審議する

- 1 予算及び決算
- 2 行事計画及び報告
- 3 役員決定
- 4 会則の変更
- 5 新役員の紹介
- 6 その他の重要事項

第十一條 (臨時総会)

会又は理事会は必要に応じて臨時総会を開くことが出来る

第十二條 (理事会)

理事会は必要に応じて会長が召集し、会務について協議決定する

又会長は理事の過半数からその希望があった場合はこれを召集せねばならない。

第十三條 (議決)

総会又は理事会はその出席者をもって成立し、議決は多数決とする

第十四條 (会計年度)

この会の会計年度は毎年四月一日より三月三十一日までとする

第十五條 (会則変更)

会則の変更は総会の議決による

第十六條 (施行細則)

この会の会則の施行に関する細則は別に定める。但し細則は理事会において改廃することができる

施行細則

第一条 (臨時会費)

会費は各OB会毎に年額一〇〇〇〇円とし、臨時に徴収することもある

事業計画



副会長 友松 敬三

翠巒体育会は、発足してまだ二年目です。当初の目的の充実に基点をハッスルして行きたいと思っております。即ち、各OB会の充実、現役との交流及び激励、それに、OB会同士の親睦、等々です。

す。それにより知らしめる効果を上げ、現役運動部への関心を一層持つていただく事を念頭にして、翠巒体育会への一致協力を願っております。

我々には、青春時代にスポーツをやったと言う誇りがありますし、心身共に健全だと言う自負があります。この仲間が、より一同に会し、母校の生徒たちのために少しでも役に立てば、と思ひ出発したのですから、最初から気負わず、やり過ぎず、時間を掛けてじっくりとこの会を創り上げて行こうと考えております。

また、計画の第二としては、近々の内に翠巒体育会名簿を作成致したく各OB会の資料を収集して行きます。生活の中で、意外に近くに、あのグラウンドで汗を流した同志がいる訳ですから、地域社会での我々にとってこれ程励みになる事はありません。是非其実現の方向に歩んで行こうと思っております。

計画としましては、本年度より年二回機関誌を発行して、各OB会の近況報告、現役各運動部の成績発表、OB諸氏の青春の思い出、等々を掲載しま

とにかく、現執行部にとって、これだけの大世帯は初めてですので、皆さんの御協力によって一つ一つ解決して立派な翠巒体育会にしようではありませんか。

(六一回・バスケット部)

関東を制覇す

—相撲—

三年 吉原 成哲

去る五月三十一日・六月一日に、第二三回関東高校相撲大会が行われたが、僕たち柔道部は目標にしていた関東柔道大会に惜しくも出場出来なかつたので、皆この相撲大会にかけていたようだ。僕も去年の桐生で行われた大会で準備勝だったので、今年こそは最後だから頑張つて優勝して来ようと思ひ込んで会場の山梨県立日川高校(山梨市)へ行った。

計量を済まし他校の練習を見た後、僕は全くと圧倒されてしまつて練習をせず旅館に行った。その旅館は大きな内風呂と露天風呂があつたので、気分がよくなり明日の事など忘れてしまひ、後輩と二人で二時間近く風呂に入つていた。

先輩、頑張ってます



現役の活躍

その日は、二時頃寝たが、翌朝一時間間違えて早く起きてしまひ寝惚けまなこで会場に行つた。他校に比べると全く軽い練習をして、僕たちは皆の練習を口を開けて見ていた。試合となり団体一回戦が終り、いよいよ個人軽量級トーナメントだ。

一回戦の相手は栃木県立高根沢商業高校の柳田で、体格は余り無かつたが僕がまだ寝惚けていたのか長引いて、やつとつり出して勝つた。二回戦は山梨県立谷村工業高校の重森で、この相手に一番苦戦した。この試合が終つて、先生に「目を覚ませ」と気合を入れられた。三回戦は、そのせいか得意のすくい投げで勝つた。ここでベスト8になつたので優秀選手賞のメダルをもらひ、「よし、頑張るぞ!」という気持になつた。

準々決勝は強豪明大附属中野高校の梅沢と当つたが、積極的に攻めてすくい投げで勝つた。準決勝で当つた寺島も明大中野の選手だったが、引き落して勝つた。だんだん調子が出て来たようである。

いよいよ決勝だ。相手は茨城県立那珂湊水産高校の磯崎という選手で、押しが得意のように思えた。これまでの試合相手の中で一番強そうだったので、まともに戦つたら負けると思ひ、立合いに横へ飛んだら見事作戦が当り、相手はバランスを崩した。そこを透かさず引き落したので、全くあつ気なく勝つてしまつた。

今大会は全く運がよかつたと思ひしかしうれしかつた。高校時代のいい思い出が一つ出来たと思つた。

先輩、頑張ってます

陸上部

監督 小林 馨

部活動の総決算、昭和五十年全国高校総合体育大会は東京オリンピック・スタジアムを中心に開かれた。陸上では、

松本が二〇〇・四〇〇M、牧が四〇〇Mハードル、村田が五種競技に出場した。アンツーカーのオリンピック・スタジアムは、時代の流れから昨秋に全天候トラック(オールウェザー)に改修された。また今大会は、首都インターハイと言う事から他の地区ではありえない光化学スモッグの心配もあり、四時より開会式が挙行されたと言う点が例年と大きく変わった事だろう。

本校選手は第二日より競技に出場。まず五種の村田が好調に初日二〇〇〇点上位に進出、二日目も健闘し県高校新記録樹立に成功。しかし本年はタータントラックの関係で記録が非常に高く入賞の夢は来年の長野大会に持ち越された。期待された牧も、コンディション不調整から一〇台目のハードルでつまづき着外と涙をのんだ。キャブテン松本も、予選はまとまつた走りでも二〇〇M二秒八八で二位。準決勝では、自己記録を出しながらも走り込み不足から後半伸びず、決勝進出の夢はついに果せなかつた。

今この文を書くに当り再度反省させられる事は、進学校という関係で、第一目標は大学受験で部活動のチャンピオンが目標ではない、出場するだけでよいと言つた甘い考えが、レース中にもトレーニング中にも出て来る。従つて気遣が感じられず無策のまま敗れ去る事が大いに目に付く。高校生として、大学受験もインターハイ入賞も勝負に負けることはない。与えられたチャンスを自己のものに出来ぬ人間が、どうして受験に実社会に向つて勝つ事が出来ようか。有名大学・一流企業



村田、400Mの力走

が人生のエリートならば、インターハイに勝つ事がまず男の花道の第一歩ではないだろうか。勉強にもスポーツにも自己に勝てる人間造りを目指し頑張りたい。なお、翠巒体育会の諸兄には、日頃暖かく見詰めていただき、また今大会に対しても多大な御援助・御協力を有難うございました。

インターハイ報告

剣道部

三年 中曾根裕和

剣道は、八月二・四日、九段の日本武道館で行われ、僕は三日の個人戦に出場しました。

一回戦の相手は佐賀県代表で、自分では勝が立たないのではないかと思つていましたが、相手も緊張していたらしくさほど強さを感じずに、三分を経過した辺りで面を一本先取しました。ここで気の緩みがあつたのかも知れませんが、その後面を取り返され延長戦にもつれ込み、結局小手を決められて惜敗しました。

しかし、試合が終つて考えてみると、「駆引」という点では相手の方がかなり上であつたように思います。九州勢の巧さと、自分の甘さを感じた試合でした。

インターハイに出場して

—相撲—

二年 高橋 浩

相撲競技は、八月一日に国立競技場で総合開会式を行った後、蔵前国技館で二日に団体予選と個人予選、三日には団体決勝と個人決勝が行われた。

僕は個人戦に出場したが、決勝トーナメントへ出場する事は出来なかつた。ここでその時の様子を紹介しようと思う。

個人予選は一回あつて、そこで好成績を取めたものが決勝トーナメントへ進出するのである。インターハイに出場する選手となるとさすがに皆大きい。それに比べ、僕は著しく小さかつた。

まず一回戦、土俵に登る相手を見ると大きく、 \bigcirc K以上はありそうだった。立合いは一度で決つて双方がつぶり石四つに組んだ。体力に劣る僕は、ぐんぐんと後ろに押しやられた。土俵際では行へ回り込んで下手投げを打つと、それが決つてしまつた。まさか勝てるとは思つてもいなかつた。会心の相撲であつた。二回戦、相手はまたも大きかつたが何か勝つてそんな錯覚を覚えた。立合ひ後相手は僕の顔面に強烈な張手を食らわせた。そこでぼう然としている内に土俵を割つてしまつた。三回戦、悪い事に相手は高知の選手だった。高知と言えば相撲の本場である。この相手もまた大きかつた。相手はおもむろに僕の胸の辺りに張手を食わした。僕はふらふらとした。そうして相手は、もう一度重みのある張手を食らわした。僕の体は既に土俵を割つてい

た。猛烈に強かつた。

結局、一勝二敗で予選を通過出来なかつた。それにしても全国のレベルは高かつた。また、何よりも国技館の土俵で相撲を取れたことを名譽に思う。来年は、より一層頑張りたいと思う。最後に、声援してくれた生徒の皆さん、先生方、翠巒体育会の先輩たちに深く感謝します。

インターハイを振り返つて

庭球部

三年 石田 和久組
中坪 賢二組

六月八日にインターハイ団体予選が高崎市営コートで行われ、前橋商業高校に1-2で敗れて、三位でしたがインターハイ団体出場の夢は破れました。

そして六月十五日には太田市営コートで個人戦が行われ、宇島、滝川組が、本当に後一步のところで惜しくも涙をのみました。そして僕たちが三位で、何とか出場権を得る事が出来ました。これも、部員・諸先輩方の応援のお陰であると思つています。

さて本大会ですが、八月六・七日に埼玉県熊谷市営コートで、熱戦が繰り広げられました。僕たちは、一回戦で福岡県立池工業高校とぶつかり、3-4で負けてしまいました。もうここまで来るとよく言われる事ですが、実力より気力、そして精神力の勝負だと思ひました。やはり勝負に勝てなかつたというのは悔しいですが、これからもその試合を無駄にしないように頑張りたいと思ひます。

インターハイ初出場

水泳部

監督 丸山 博

今年度、水泳部は部員二名と県内で最多部員数を誇り、ついに永年の目標であった県総体優勝を勝ちとつた。

個人としては野村照夫が、県大会で二〇〇M個人メドレー・四〇〇M個人メドレーで優勝、関東大会でそれぞれ二位と四位、インターハイで堂々一〇位と八位と言う成績を上げた。

県大会では、野村を含め、脇・斎藤・関・小野関・横山・須藤らの活躍で、リレー種目一八〇〇M・四〇〇M・四〇〇Mメドレーで完全優勝をした。今年度は利根商業高校がメンバー不足のため二位となつたが、来年は力をつけて優勝旗を取り返すと公言している。我々もまた、連続優勝を目指して練習を始めました。先輩諸兄の御指導・御援助をお願い致します。

国体報告

水泳部

二年 野村 照夫

第二〇回三重国体(夏季大会)の競泳は、四日市市水泳競技場で開催されました。群馬県選手団は、七名の参加です。

九月十二日朝出発。旅疲れもなく午後四日市に到着しました。さすがに煙突が多く大型トラックも連なっていました。その日と翌日は練習プールで最後の仕上げ、そんな中で徐々に気持が充実し、試

合に対する心構えが出来て来ました。

いよいよ十四日、四日間の夏季大会の幕開けです。少年男子は、一日予選、二日目決勝というプログラムです。正午二〇〇Mバタフライに出場、一五〇Mまでベストラップでまわりましたがあと一步が足らず、二分六秒七三の凡記録で一七位に終わりました。自分では四〇〇M個人メドレーに賭けていたので、そんなに気にはしませんでした。

続いて一時一〇分から四個メの子選です。第一召集を通過し、第二召集所では全国から集まつた選手たちが緊張した表情で体操をしたり本プールの方をうかがつたりしています。私は適度に緊張をほぐすように近くにいる人と話をします。内容はともかくも、話しているだけで、良いのです。ピストルの音で、斉にスタート、バタフライはまずまず。続く背泳は私の苦手種目でバタフライのリードを取り返されてしまひます。平泳は、得意なので他を張り切り、最後の自由形で逃げ切ります。こんなレース展開で五分一秒・四のベストでその組で二位、全体で五位で通過しました。

翌日、三時一〇分から決勝です。予選とは違い、何だか重苦しい空気で、九名で決勝は行われました。前日より限界感が早く来ました。力んでいたのですが、最後、自由形でせり負けて、六位入賞にとどまりました。レースの度に新しい課題が見付かり、新たな闘志を燃やします。このレースも、私にとっては良い勉強になりました。

昭和50年度

高崎高校運動部活躍状況

(昭和50・9・1)

大会名 種目	県高校総体(関東予選)					インターハイ 県予選	国体予選 その他
	49年	50年	1位	2位	3位		
陸上	6位	富高	中之条	前工	5位	4名5種目通過	
バスケット	3位	前高	高高	桐工		3位	1年生大会
バレー	5位	高高	高商	前商	商高	2位	3位
テニス	4位	高商	前商	桐工	5位	2位	決勝リーグ
卓球	5位	高商	沼高	伊中	工央	9位	
ラグビー	2位	高高	太商	伊東	高	冬季	
サッカー	3位	前工	館高	高	高	5位	
ハンドボール		富高	前商	藤高			
体操	7位	高工A	伊商	高工B	7位	5位	8位
相撲	3位	勢農	農二	樹徳	4位	4位	
登山	8位	沼高	渋高	高工	10位		
柔道	3位	前商	農二	高利	商高	9位	5位
剣道	3位	新島	利農	藤高	高工	5位	中曾根個人1位 5位
バドミントン		桐高	桐商	桐南			(中量級)2位 15チームリーグ 1勝3敗
軟式野球		中之条	太商	前工	工		
レスリング		館高	大泉	高関	工学		
弓道		前商	農二	伊工			
自転車		育英	安中	前商			
ボクシング		育英	安中	板倉	高工		
ウェトリフティング		利農	育英	前工			
フェンシング		沼高	育英	前工			
庭球		前高	太商	藤高	高		
空手道		高商	高工	渋高	高		
水泳	2位	高高	利商	高商		12名9種目通過	1名出場

関東大会・インターハイ出場者

関東大会出場者成績

○バスケット

高高 57-80 小石川高

○バレー

高高 (15-4) 城北 2回戦

高高 (8-15) 15-9 中大付高 3 "

高高 (6-15) 4-15 藤沢商 準々決勝

○テニス

石田・中坪組 4-1 田園高 0-4 江北高

寺島・滝川組 4-3 日川高 2-4 矢板中央

○剣道

予選リーグ 高高 0-5 法政二 (落)

○ラグビー

高高 20-19 浦和

○相撲 (個人ノ部)

優勝 吉原成哲(軽量級)

(団体ノ部)

予選リーグ 高高 0勝3敗

○陸上

松本 200m 決勝6位(入賞)

400m 決勝6位(入賞)

牧 400m H " 6位(入賞)

村田 五種3285点5位(入賞)

清水 ヤリ投子選 (落)

4×400m R子選 (落)

全国高校選手権大会出場者成績

○陸上

松本 400m子選5位(落)

200m(22秒8)準決4位(落)

牧 400m H子選6位(落)

村田 五種3315点県新(落)

○テニス

1回戦 石田・中坪3-4橋本・西田
(高高) (三池工)

○剣道

中曾根(高々) 1-2 栗林(佐賀西)

○水泳

野村照夫

400m個人メドレー 8位 5'11"6(県新)

200m個人メドレー 10位 2'26"3(県新)

○相撲 高橋

予選リーグ 1勝2敗(落)

野 球

○秋季大会(関東大会予選)49年度 優勝

○関東大会1回戦 高高5-10 東海大相模

○春季大会 50年度 高高1-5 前工

○全国高校県予選 1回戦 高高9-1 桐工

2回戦 高高10-0 勢農

3回戦 高高8-2 渋高

4回戦 高高0-6 樹徳

国 体 出 場

○テニス

(個人ノ部) 石田

○水泳

(個人ノ部) 野村

教員の部

相撲 江原先生

高校総体総合成績

順位	48年	49年	50年	点
1	前商	前商	高商	13.0
2	富高	育英	高高	11.5
3	沼高	前工	前商	11.5
5	前工	高工	育英	10.0
5	高工	沼高	高工	8.5
6	中之条	高商	沼高	8.0
7	高商	前高	前工	6.5
8	育英	高高	農二	6.0
9	渋高	富高	富高	6.0

